

造影 CT 検査を依頼される際の問診 注意事項

造影 CT 検査を行う際には以下についてご注意ください。

問診にてリスクがあると判断された患者様に関しては、造影剤を用いない単純 CT を御依頼ください。詳細については、地域医療連携課にご確認ください。

CT 用造影剤の使用にあたり以下表に示した疾患や該当する項目がないことをご確認ください。

- ☐ ヨードまたはヨード造影剤に対して重症度に関わらず副作用歴のある方、過敏症の既往がある方
- ☐ 重篤な甲状腺機能障害
- ☐ 全身状態が極めて悪い場合
- ☐ 気管支喘息（小児喘息も含みます）
- ☐ 重篤な心機能障害
- ☐ 重篤な肝機能障害
- ☐ テタニー
- ☐ 褐色細胞腫（疑いを含む）
- ☐ 重篤な腎機能障害（eGFR45mL/分/1.73m²未満）
※クレアチニン値は血清 Cr に基づく推算式早見表にて基準値をご確認ください。
- ☐ マクログロブリン血症
- ☐ 多発性骨髄腫
- ☐ ベーター遮断薬の内服

上記のいずれにも当てはまらない場合のみ検査のご依頼をお受けさせていただきます。

アレルギー体質の方は副作用の頻度がやや高くなります。前回造影剤使用時に異常がなくても、体調など様々な因子で副作用が起きる可能性があります。内服薬のある方は必要に応じてお薬についてお伺いさせていただく場合がございますので、お薬手帳をお持ちいただくと便利です。

※ 詳細について

- ・ 気管支喘息治療中並びに既往歴のある方は、当院にて検査のご対応はお受け兼ねます。過去に副作用歴のある方も同様です。
- ・ ビグアナイド系糖尿病薬を内服中の方は、乳酸アシドーシスを引き起こす恐れがあるため、検査の前後 2 日（計 5 日間）の休薬が必要です。
- ・ 明らかな甲状腺機能亢進症の場合、甲状腺中毒症の副作用の恐れがあるためヨード造影剤を用いる検査は推奨されていません。
- ・ ベーター遮断薬を内服中の方は、副作用発生時に使用するアドレナリンの効果を減弱させる可能性があるため、当院にて検査のご対応はお受け兼ねます。
- ・ 造影剤による腎機能障害予防の観点から造影検査前に必ず血液検査による腎機能評価を行うことになっております。当院では 3 ヶ月以内の eGFR を参考に検査を実施しています。
万が一、検査施行時までには腎機能が不明の場合、造影剤は投与しかねますので予めご了承ください。
安全な検査実施のため造影検査前の腎機能評価についてご理解、ご協力お願いいたします。